

高齢者医療制度の見直しについて

1 七〇～七四歳の人(注1)の窓口負担について

今年四月から平成二二年三月までの一年間窓口負担が一部に据え置かれます。

(注1)既に三割負担を頂いている人、後期高齢者医療制度の対象となる一定の障害認定を受けた人は除きます。(注2)昨年の制度改正では、七〇～七四歳の人の窓口負担については、平成二〇年四月から二割負担に見直されることとされていたものを据え置くものです。

2 後期高齢者医療制度における七五歳以上の被扶養者の保険料について

今年四月から九月までは無料となり、今年十月から平成二二年三月までは、頭割保険料額(被保険者均等割)が九割軽減された額となります。対象者 七五歳以上の人(A)で、後期高齢者医療の被保険者になる日の前日(平成二〇年三月三十一日または七五歳の誕生日の前日)において(B)の被扶養者となっている人(A)六五～七四歳で一定の障害認定を受けた人を含みます。

(B)政府管掌健康保険や、企業の健康保険、公務員の共済組合等、いわゆる「サラリーマン」の健康保険であ

り、国民健康保険は該当しません。

(C)昨年の制度改正では、被用者保険の被扶養者の人については、後期高齢者医療制度の被保険者となった日の属する月から二年間、被保険者均等割を五割軽減することとされていますが、今回の措置はそれに加えて行うものです。

六五～七四歳で老人保健制度に加入されている人へ申請により後期高齢者医療制度への移行を撤回できます。

現在、老人保健制度に加入されている人は、今年三月で現在加入している健康保険(国民健康保険や社会保険等)から脱退し、四月から自動的に後期高齢者医療制度に移行します。

ただし、一定の障害があるために任意で加入している六五～七四歳の人には、申請により移行を撤回できます。撤回はさかのぼることはできませんので、四月以降に手続きをされた場合は、加入月分の後期高齢者医療保険料が発生します。(三月までに撤回の手続きをされても年金から一時的に引き落とされる場合があります)

後期高齢者医療制度に移行する場合と申請により撤回した場合では、医療費の負担額や保険料等に変更が生じます。変更内容は個人ごとに異なりますので、詳しくはお問い合わせください。問合せ 健康増進課 ☎内線二一～二二四

平成十九年度 交通安全と地域安全の町民絵巻大会

十一月十七日(土)福祉文化会館で表彰式(一般、交通安全・地域安全標語)が行われました。

(敬称略、学校・学年については、応募時の平成十九年九月のもので)

受賞作品

交通安全標語優秀作品

小学校の部

最優秀 飛びだすな 車の陰に また車 葉山小学校六年 長岡 美樹

優秀 駐車場 止めてゆっくり 海見てね 長柄小学校六年 中澤 天

中学校の部

最優秀 「大丈夫」そんな油断が 事故への一歩

葉山中学校二年 高橋 亜総

優秀 気をつけて きけんはいつも そばにある

葉山中学校一年 須藤妃沙乃

地域安全標語優秀作品

小学校の部

最優秀 帰り道 明るく照らす 地域の日 葉山小学校五年 飯田奈友子

優秀 げんかんの 明りで守る ぼくの町

葉山小学校五年 矢嶋 優人

中学校の部

最優秀 犯罪を 決して逃さぬ 地域の日 葉山中学校二年 鷺頭 慎

優秀 しっかりと 子供を見守る 地域の日

葉山中学校二年 和田のぞみ

問合せ 町民サービス課 ☎内線二〇五・二〇六

平成十九年度 葉山町非核平和標語コンクール入賞作品

非核平和事業の推進のため、町内在住・在学の中学生を対象に標語を募集したところ、六八人から一〇七点の作品の応募がありました。十一月二十九日(木)に開催された選考委員会で厳正に審査した結果、次の生徒の作品が選ばれました。

(敬称略、学校・学年については、応募時の平成十九年九月のものです)

金賞

核捨てて 未来へ渡そう 平和の灯 矢嶋 桃子(葉山中学校二年生)

銀賞

核はもう 存在しないと伝えたい せめて私の未来の子には

加藤 美鳥(南郷中学校三年生)

銅賞

核兵器 持たない勇気を持つ勇気 田中 亮匡(葉山中学校二年生)

佳作

非核化は 世界の平和を 開く鍵 鈴木俊太郎(葉山中学校二年生)

非核化へ 国をこえた 愛の糸 鈴木 遥渚(葉山中学校二年生)

摘もうよ争いの核、育もうよ平和の芽 樋浦 秋澄(葉山中学校三年生)

知らせよう 核の悲しみ 世界の友へ 田中 大士(葉山中学校二年生)

核のない 平和な国への 橋づくり 岩上 勇太(葉山中学校二年生)

問合せ 企画調整課 ☎内線三三二一～三三三二

消防署の出場件数

平成19年中の消防車の出場件数は337件でした。内訳は火災出場6件、救助出場22件、その他の出場309件です。前年と比較しますと16件の増加となります。

救急車の出場件数は1,597件で、前年より147件増加しました。傷病程度別では全体の48%が軽症(入院を必要としないもの)です。救急車の正しい利用方法にご協力をお願いします。

問合せ 消防本部 ☎876-0119 内線210

1 火災出場

区分	種別	建物火災	車両火災	その他火災	計
平成18年中		8	1	3	12
平成19年中		3	1	2	6
比較		△5	0	△1	△6

2 救助出場

区分	種別	火災	建物等による事故	交通事故	水難事故	その他	計
平成18年中		2	14	5	5	5	31
平成19年中		1	7	6	4	4	22
比較		△1	△7	1	△1	△1	△9

3 その他の出場

区分	種別	救急支援	危険排除	偵察	警戒	計
平成18年中		228	21	29	0	278
平成19年中		273	9	27	0	309
比較		45	△12	△2	0	31

4 傷病程度別搬送人員

区分	程度別	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
平成18年中		25	99	566	711	0	1,401
平成19年中		20	103	667	741	0	1,531
比較		△5	4	101	30	0	130

5 救急出場件数(事故種別)

区分	事故種別	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自行損傷	急病	その他	計
平成18年中		3	0	7	126	8	3	299	2	7	936	59	1,450
平成19年中		0	0	7	124	13	5	330	5	16	1,043	54	1,597
比較		△3	0	0	△2	5	2	31	3	9	107	△5	147